

山梨県笛吹市

物見塚遺跡

農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

山梨県峡東農務事務所
笛吹市教育委員会

序

笛吹市には、縄文時代前期末から中期末にかけて、華やかな立体装飾を持つ土器と、豊かな表情を持つ土偶に代表される文化が栄え、これまでにも花鳥山遺跡、銚子原遺跡、积迦堂遺跡、桂野遺跡、一の沢遺跡など全国に誇るべき集落遺跡が調査、報告されてきました。また、积迦堂遺跡や一の沢遺跡の出土品は、国の重要文化財に指定され、博物館において広く公開されております。

さて、市内には、これら縄文時代の拠点集落というべき遺跡のほかにも、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代を通して数多くの遺跡があり、教育委員会ではこれら遺跡群と数多くの文化財を活用し、「甲斐国千年の都笛吹市」として、広く県内外に情報発信しております。

今回、報告する物見塚遺跡は、縄文時代中期の大集落として知られる积迦堂遺跡の東約300メートルに位置します。京戸川扇状地の扇央部にあり、現在では、桃や葡萄を中心とした果樹栽培が盛んな地域です。縄文時代においても、この豊かな土壤を背景に堅果類などが豊かに実ったことでしょう。物見塚遺跡は、消費の場である积迦堂集落と採集の場である山々の中間に位置します。この遺跡の調査成果によって、积迦堂集落が新たな視点で検証されることになれれば幸いです。

最後に、発掘調査にご理解、ご協力いただきました地権者各位、岐東農務事務所、地元千米寺区、石区、南野呂区をはじめとする関係各位に感謝申し上げますとともに、本調査報告書が広く活用されますことをご期待申し上げます。

平成22年3月30日

笛吹市教育委員会

教育長 山田武人

例　　言

1. 本書は、山梨県笛吹市一宮町千米寺830番地、926番地における農道整備事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は、農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業駿迎堂地区工事施工区建設に先立ち山梨県駿東農務事務所との委託契約に基づき平成20年に笛吹市教育委員会が実施した。
3. 調査区の名称は、千米寺926番地を物見塚遺跡A区、千米寺830番地を物見塚遺跡B区とした。
4. 発掘調査は笛吹市教育委員会文化財課、望月和幸が担当した。
5. 本書の執筆、編集は笛吹市教育委員会文化財課、望月和幸、大木丈夫が行った。
6. 本書に掲載されている遺物、図版、写真は笛吹市教育委員会で保管されている。
7. 本書に掲載されている挿図、図版は笛吹市教育委員会文化財課、大木丈夫が担当した。
8. 発掘調査、報告書作成にあたり、次の機関、諸氏からご指導、ご協力を賜った。記して感謝申し上げる。

駿東農務事務所、笛吹市千米寺区、財団法人山梨文化財研究所、駿迎堂遺跡博物館、山梨県埋蔵文化財センター

調査組織

調査事務局	山田武人	(笛吹市教育委員会教育長)
	早川哲夫	(笛吹市教育委員会次長)
	中山孝仁	(笛吹市教育委員会文化財課長)
	伊藤修二	(笛吹市教育委員会文化財課調査担当リーダー)
調査担当者	望月和幸	(笛吹市教育委員会文化財課)
	望月秀和	(笛吹市教育委員会文化財課)
発掘調査作業員	馬渕泰藏	榎原千代子 保坂洋 野沢きみ江 橋田ぎん子
	馬渕松子	志茂 睦 名取正司 花村玲子 鈴木智恵美
室内整理作業員	小田切健吾	高野眞寿美 渡辺利江

凡　　例

1. 本書中の地図は、「国土地理院 石和2万5千分の一」をもとに加筆した。
2. 本書における遺構図の縮尺は、原則として堅穴造構1:60、土坑1:30、ピット群1:60である。また、出土遺物の実測図、拓本の縮尺はそれぞれ図示する。

目 次

序、例言、凡例、目次、挿図目次、図版目次、表目次

第1章	調査の概要	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	地理的環境と歴史的環境	1
第3節	調査の方法と経過	1
第2章	発見された遺構と遺物	2
第1節	調査区の概要	2
第2節	竪穴遺構	2
第3節	土坑	3
第4節	遺構外遺物	4
第3章	考察	4

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図	5
第2図	周辺遺跡分布図	6
第3図	調査区位置図	7
第4図	遺構配置図	8
第5図	1号竪穴遺構	9
第6図	1号竪穴遺構出土土器	9
第7図	2号竪穴遺構	10
第8図	2号竪穴遺構出土土器	10
第9図	3号竪穴遺構	11
第10図	3号竪穴遺構出土土器	11
第11図	土坑	12
第12図	ピット群	13
第13図	A区遺構外出土土器	14
第14図	B区遺構外出土土器	15
第15図	石器	15

図 版 目 次

図版1	1. 物見塚遺跡から甲府盆地を望む 2. 調査風景 3. A区全体写真 4. B区全体写真 5. 土坑検出状況 6. 1~3号竪穴遺構 7. 1号土坑検出状況 8. 2号土坑検出状況
図版2	9. 3号土坑検出状況 10. 5号土坑検出状況 11. 1号・2号竪穴遺構出土土器 12. 3号竪穴遺構出土土器 13. A区遺構外出土土器 14. B区遺構外出土土器 15. 打製石斧 16. 磨石

表 目 次

第1表	物見塚遺跡遺物観察表(1)	16
第2表	石器観察表	17

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

笛吹市一宮町千米寺地内埋蔵文化財包蔵地内における農道建設計画に伴い、平成16年度より、埋蔵文化財の対応について協議を行ってきた。

本報告書に記載されている埋蔵文化財包蔵地「物見塚遺跡」B区（千米寺830番地）については、平成19年9月から10月にかけて試掘調査を実施し、埋蔵文化財が確認された。A区（千米寺926番地）については、平成19年度においては耕作物等の関係から、試掘調査を実施しておらず、平成20年度の試掘調査計画のなかで取り扱うこととなった。

平成20年9月5日、岐東農務事務所、笛吹市教育委員会により、物見塚遺跡調査に関する協議を行い、さらに具体的な段取りについて9月17日、岐東農務事務所、現場施工業者と笛吹市教育委員会による協議を行った。A区試掘調査をB区本調査に先行し、A区の試掘調査の結果、埋蔵文化財が確認され、本調査を実施することになった場合は、A区の本調査を先行して実施することが確認された。

A区の試掘調査の結果、埋蔵文化財が確認され、A区も本調査対象地域となり、試掘調査に引き続き、平成20年9月24日から10月21日にかけて、A区より本調査を実施、B区も含め、平成20年10月23日付けで山梨県教育委員会へ発掘調査終了報告書を提出し、埋蔵物発見届けを笛吹警察署に提出した。

第2節 地理的環境と歴史的環境

山梨県笛吹市は、甲府盆地東縁、京戸川、金川等御坂山塊より流れ出る河川により形成された扇状地に広がる広大な果樹地帯を有し、桃、葡萄の出荷量で日本一を誇る。その肥沃な土壤と豊かな自然環境を背景に、市内には駿遊塚遺跡群、花鳥山遺跡、桂野遺跡、銚子原遺跡、一の沢遺跡などの縄文時代拠点集落や、大原遺跡、松原遺跡、筑前原遺跡、二之宮・姥冢遺跡、松本塚ノ越遺跡など古墳時代から平安時代の大集落遺跡が広がっている。また、これら古代集落遺跡の立地と生産力を背景に、春日居町寺本に甲斐最古の寺院である寺本古代寺院が建立され、一宮町には甲斐国分寺、国分尼寺が建立された。また、甲斐国府も、春日居町国府、御坂町国衙にあったとされ、古代、笛吹市一帯は政治、宗教の中心地であったことが分かっている。笛吹市では、「甲斐国千年の都 笛吹市」として、豊かな歴史遺産を活用したまちづくりが進められている。

笛吹市一宮町と甲州市勝沼町の境界、中央自動車道駿遊堂パーキング付近は、京戸川によって形成された扇状地で、駿遊塚遺跡、三口神平遺跡、若宮遺跡、鍛塚A遺跡、鍛塚B遺跡、塚越遺跡、未新田遺跡、物見塚遺跡などの遺跡が確認されている。

これらの遺跡では、縄文時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世と長期に亘る生活の痕跡が確認されている。特に中央自動車道、駿遊堂パーキング建設に先立って実施された駿遊堂遺跡群の発掘調査においては、1116点の土偶と縄文時代早期、前期、中期を中心とした256軒の住居跡群が確認され、発掘調査された。また、千米寺古墳群と呼ばれる横穴式石室の古墳群が残り、古墳時代後期には、一帯が墓域としても利用されていたことが分かっている。

京戸川扇状地には、京戸川と平行して何本かの沢と小河川が流れ、小河川により形成された小規模な段丘が形成されている。駿遊堂遺跡群よりも上流の遺跡は、小河川に挟まれた馬の背状微高地に広がりを見せるが、地表に散布する土器、石器量は多くない。また、馬の背状微高地でも、地山に数百キロから数トン規模の自然石が幾箇も帯状に入り込んでおり、縄文以前にも度々土石流被害に見舞われてきた地域であることが伺える。

第3節 調査の方法と経過

試掘調査の結果、発掘調査対象地点は約60m離れた2箇所となり、それぞれA区、B区とした。一宮町千米寺926番地を物見塚遺跡A区、同千米寺830番地をB区とし、立木伐採の都合もあり、まずは重機によりB区の表土を除去、遺構

と土器の分布概要を確認し、その後重機によりA区の表土を除去した。

工事着手の段取りの都合から、試掘調査において遺構の集中がみられたA区にて先行して詳細な遺構確認作業を行い、遺構の発掘、遺物の取り上げを実施した。

A区においては、平成20年9月25日、道路基準杭を基準として、2mメッシュのグリッドを設定、標高基準は道路基準杭No.38+55の標高である479.941mを基準として、調査区内に480.000mのベンチマークを設定し、それぞれを活用して測量した。

B区においては、A区の調査が終盤に差し掛かった10月16日にベンチマークを設置、詳細な遺構確認作業を開始した。B区は調査範囲が狭く、遺構、遺物の密度も極めて薄いことから、道路基準杭を利用した平板測量を中心にして平面図を作成した。B区におけるベンチマークはA区から移設し、481.000mを区内に設定した。

A区、B区とともに、遺構、遺物の記録を作成し、平成20年10月21日、調査を終了し、10月22日、山梨県教育委員会および山梨県東農務事務所宛てに発掘調査終了報告書を提出、併せて遺物発見届けを笛吹警察署に提出した。

第2章 発見された遺構と遺物

第1節 調査区の概要

A区の概要

A区は、駿迎堂遺跡博物館から京戸川扇状地を扇頂側へ約300m上がった京戸川北側の小河川段丘肩に位置し、調査以前は、その肥沃な土壤を利用して桃栽培が行われていた。周囲の表面採集調査にて、若干の縄文土器片が確認できたが、その量は多くはない。

試掘調査の結果、調査区南西側の段丘肩の部分より、縄文時代中期土器片を含む暗褐色遺物包含層が確認され、本調査を実施することになった。調査の結果、段丘肩部分に集中して3軒の円形竪穴遺構が確認され、4基の円形上坑が確認された。また、3軒の竪穴遺構は、切り合いながら極めて狭小な範囲に造られており、周囲に広がる様子は見られない。また、各竪穴内には炉が無く、柱穴も浅い。これら竪穴遺構の平面規模からは、住居跡としての用途が考えられるが、遺構内施設と遺物から居住目的の空間とは判断し難い。むしろ、駿迎堂遺跡群の人々が小河川を利用して堅果類のあく抜き等を行う際の作業場的な施設であったのではないかと想像させる。

B区の概要

B区は、A区の北側、約60m、駿迎堂遺跡博物館から扇状地扇頂側に約300m上がった位置にある。B区以北は急激な傾斜を持つ沢になっており、かつては小河川が流れていることが地形より判断される。

B区は、試掘調査の結果、縄文時代後期を中心とする土器片と時期不明のビットが確認されていたため、本調査を実施したエリアであり、本調査の結果、土坑、ビット群、縄文時代後期を中心とした土器片が確認された。

住居跡等居住域を想定させるような遺構、落とし穴のような狩猟に直結するような遺構は確認されなかつた。

第2節 竪穴遺構

1号竪穴遺構

1号竪穴遺構は、物見塚遺跡A区南端の段丘肩部にて確認された。他の遺構に切られているため、正確な規模は不明であるが直径約5mの円形ないし、短軸5m程度の楕円形を呈すると思われる遺構である。柱穴は不明確であるが、5箇所ビットが確認されている。炉は未確認である。出土遺物については、小片の混入遺物のみであり、住居に伴うような床直遺物、大振りな一括遺物は認められない。混入遺物についても、縄文時代前期駿迎堂ZIII式に比定されよう土器片と、中期曾利IV式期の土器片があり、いずれも遺構の時期を確定させるものではない。2号竪穴遺構、3号竪穴遺構、5号土坑に切られている。

土器を完全に持ち出している点、床、浅い柱穴、見当たらない炉、川沿い段丘肩の立地、周辺への住居址の広がりが認められない点などから総合的に判断し、駿遊堂集落の住人等による川での水さらし作業に関する簡易作業場的施設であったのではないかと思われる。

2号堅穴遺構

2号堅穴遺構は、物見塚遺跡A区南端の段丘部にて確認された直径6.5mの円形を呈する遺構である。3軒の遺構が狭い範囲に切り合う状況にあり、この遺構に伴う柱穴は確定し難い状況にある。確実に2号堅穴遺構に伴う柱穴は2本確認されている。柱穴は30cmと浅い。1号堅穴遺構同様に炉は未確認である。出土遺物は縄文前期、諸穢式期に比定される小片と五領ヶ台式期口縁小片が認められた。いずれも搬入品で、遺構の時期を確定するべき資料にはなり得ない。1号堅穴遺構を切る。3分堅穴遺構に切られる。1号堅穴遺構と同様施設で、建て替えが行われたものと思われる。

3号堅穴遺構

1号、2号堅穴遺構と同様、段丘肩に2号堅穴遺構と切り合い存在する。残存部分が少なく、不明瞭であるが直径約5mの円形を呈すと思われる。柱穴は不明瞭であるが、ピットが2本認められる。いずれも浅い。炉は認められない。出土土器は、縄文時代前中期、諸穢期の土器小片、中期井戸尻期土器片、曾利II、III、IV式期の土器片が認められるがいずれも小片であり時期を確定できるものではない。1号、2号堅穴遺構を切る。1号、2号堅穴遺構同様の性格を持つ施設で、建て替えられたものであろう。

第3節 土坑

1号土坑

上場直径110cm、下場直径101cmを測り円形を呈する。底部は平坦で、坑底施設は確認できない。壁はほぼ直に立ち上がる。残存部分は浅く、確認面からの深さは15cm程度である。覆土は、暗黄褐色土。風化した花崗岩微粒子を混入する。磨耗が著しいが縄文時代中期と思われる土器小片を混入する。

2号土坑

上場直径96cm、下場直径82cmを測る円形を呈する。底部は平坦で、坑底施設は確認出来ない。残存部分は浅く、確認面から20cm程度である。壁は崩落の影響もあり、図面上ではやや外反するように見えるが、ほぼ直に立ち上がるものと思われる。覆土は暗褐色土で土坑底部中央付近にロームブロックが認められる。遺物は伴わない。

3号土坑

上場直径101cm、下場直径90cmを測る円形を呈する。底部は平坦で坑底施設は認められない。残存部分は浅く、確認面からの深さは12cm程度である。壁はほぼ直に立ち上がる。覆土は暗褐色土と明褐色土が混合しており、しまりも弱い。比較的新しい時期の土坑である。遺物は伴わない。

5号土坑

上場長軸130cm、短軸108cmの橢円形、下場長軸80cm、短軸70cmの橢円形を呈する。底部は地山岩盤で止まる。深さは土坑中央で確認面より40cmを測る。覆土は上層は暗赤褐色土、下層は明褐色土であり、風化した花崗岩微粒子を混入する。土坑全体は自然埋没の様相を呈する。1号堅穴遺構、3分堅穴遺構を切っている。

第4節 遺構外遺物

A区遺構外遺物

A区では、小河川段丘肩より、3軒の縄文時代の堅穴造構と時期不明土坑が見つかっている。A区からは、縄文時代前期末十三世紀式期、中期初頭五領ヶ台式期、中期後半曾利式期、後期掘之内式期など、幅広い時期の土器片が認められている。いずれも小片で、復元可能なものは認められない。その中でも、曾利式期のものが目立ち、曾利Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ式期のものが多く見られる。

このエリアが、駿遊堂遺跡集落の存続に伴い、幅広い時期を通じて利用されていたのではないかと思われる。

B区遺構外遺物

B区は、扇状地扇央付近に位置し、地山内には巨大な自然石が認められる。これらはかつての土石流の跡ではないかと思われる。B区では、土坑、ピットなどが認められているが、いずれも時期を確定できるようなものはない。

遺構外遺物も、縄文時代早期、神之木台式期に比定されると思われる土器片から中期初頭五領ヶ台式期の集合沈線土器、中期前半落沢式期に比定される結節沈線土器、後期掘之内式期、加曾利B式期など時期的にも幅を持つバラエティに富んだ土器小片が出土している。住居跡は認められず、集落としての性格を持つエリアではない。

第3章 考察

物見塚遺跡の堅穴造構

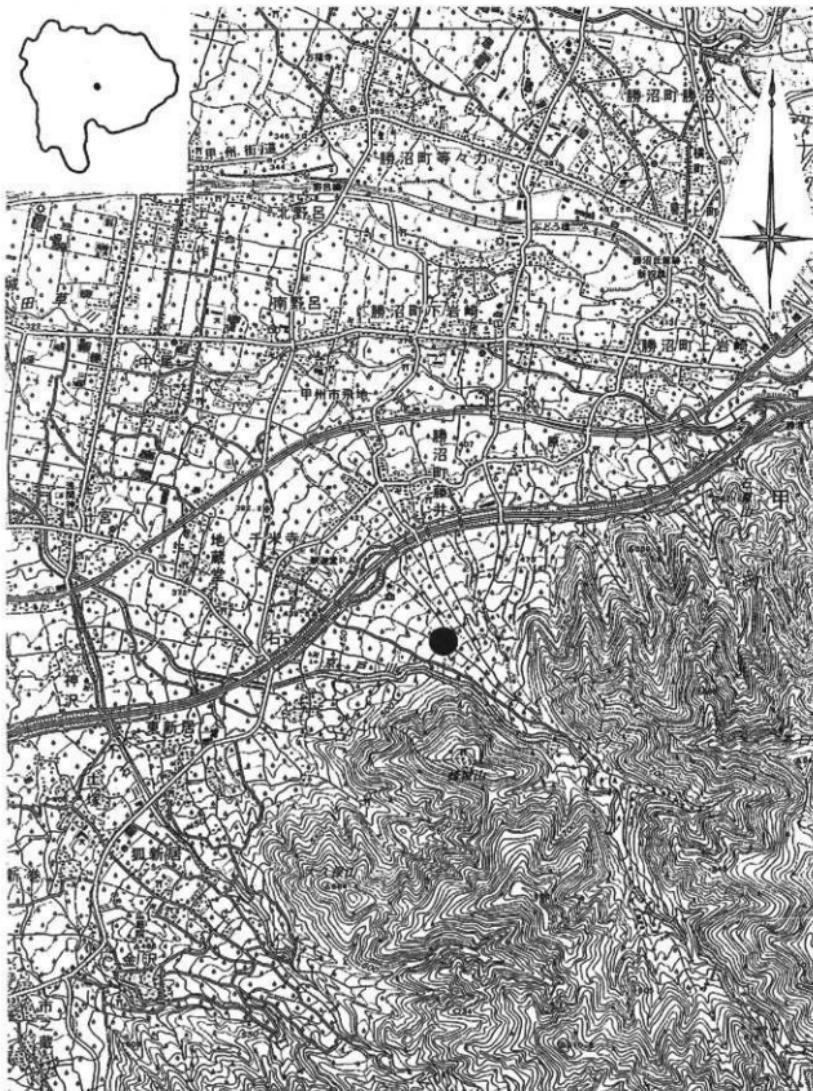
物見塚遺跡は、消費の場である駿遊堂遺跡群と、採集の場である茶臼山、大沢山の間に広がる扇状地扇央部に位置する。この空間は、採集の場と消費の場をつなぐ位置にあり、縄文人の生活を解明するうえで、重要な位置にある。しかし、集落遺跡と違い、土器の散布も少なく、このような遺跡は試掘調査においても遺物や遺構が検出され難いことから本調査に至らないケースも多いのではないか。

採集の場と消費の場の間には、生産の場（栽培）や加工の場があつてもよいのではないかと思われる。ここでいう加工とは、堅果類のアケ抜きなどを指す。山々から採取した堅果類にはアケが強くそのままでは食用に適さないものがあり、これらを食用にするためには水さらしなどのアケ抜きの行程が必要になる。集落内で行うこともあるよう、採集地から集落に至る途中で適当な規模の小河川や沢があればそこで集中的に行なったほうが効率的であろう。

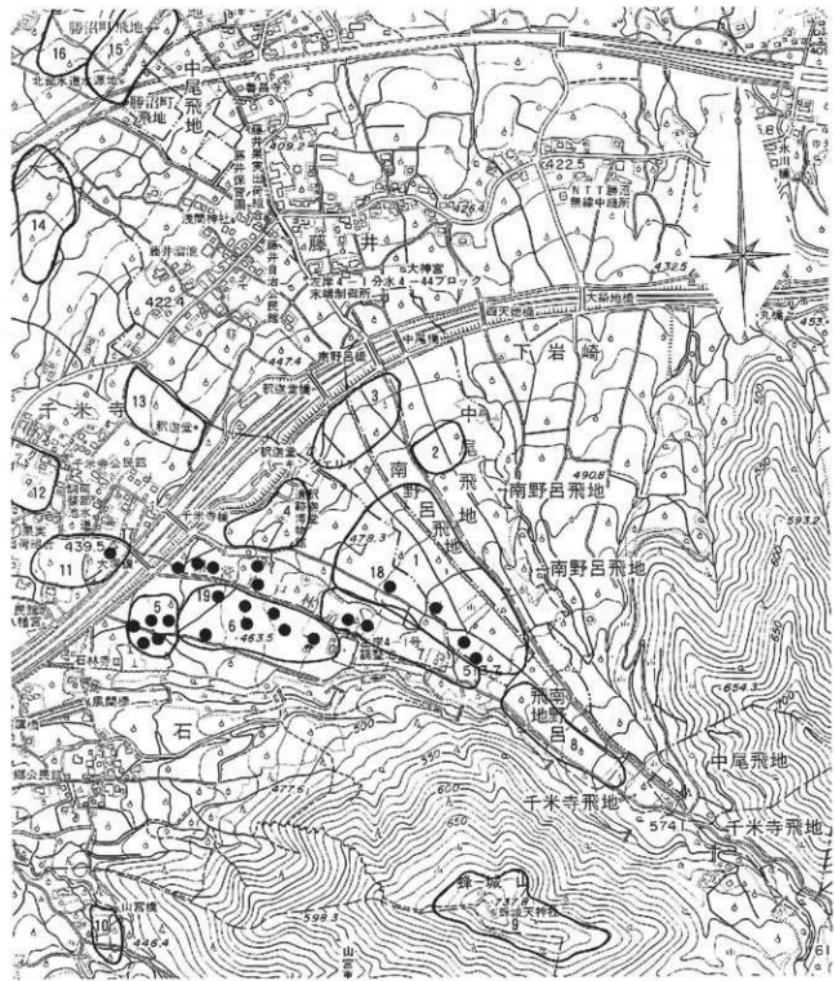
物見塚遺跡で確認されたA区の堅穴造構は、いずれも小河川段丘肩に切り合ひながら集中して存在し、そこから離れると認められなくなる。極めて限的な立地に造られたものであり、一般の生活に伴う居住群（ムラ）とは呼び難い。また、いずれの堅穴造構においても、浅く細い柱穴であり、炉や周溝といったあるべき施設が認められない。居住のための家としての機能は不十分であると指摘できる。いずれの施設も、川に下りていく段丘肩部の立地や、住居に伴う土器が認められない点、駿遊堂集落本体から徒歩5分程度の距離などから判断し、駿遊堂集落における水さらし作業場的性格を有する季節性施設ではないかと推測される。河川へ降りる斜面については、耕作による削平、河川による削平もあり、調査されていないが、今後水さらし場等の調査事例を待ち、再検証する必要があろう。

また、B区においては、小ピット群が確認されたのみで、住居址やA区で見られたような堅穴造構は確認されていない。B区は現在の河川からは離れておりB区北隣から広い沢が入るが、縄文時代前期末から後期にかけては水が流れていなかつたか、使い勝手の点でA区のほうが勝っていたということであろう。一方で、B区においては、落し穴など狩猟を実行せる遺構も検出されていない。のことから、B区付近は狩猟の場という性格付けも出来ないであろう。

縄文時代の集落遺跡では、集落部は居住域または祭祀の場としての位置づけがあるが、周辺部は遺跡としての調査事例も少なく、言及することは難しい。経験的に、集落中心部から①広場、②住居、③土器捨て場、④空白地、⑤狩猟採集域というような組み立てを持っていたが、今回の物見塚遺跡の調査により、④の空白地に生産、加工域という言葉を当てはめてみたい。今後、④の仮称「生産、加工域」における発掘調査事例の増加を待つて更なる検討を加えていきたい。



第1図 遺跡位置図 (S=1:25,000)

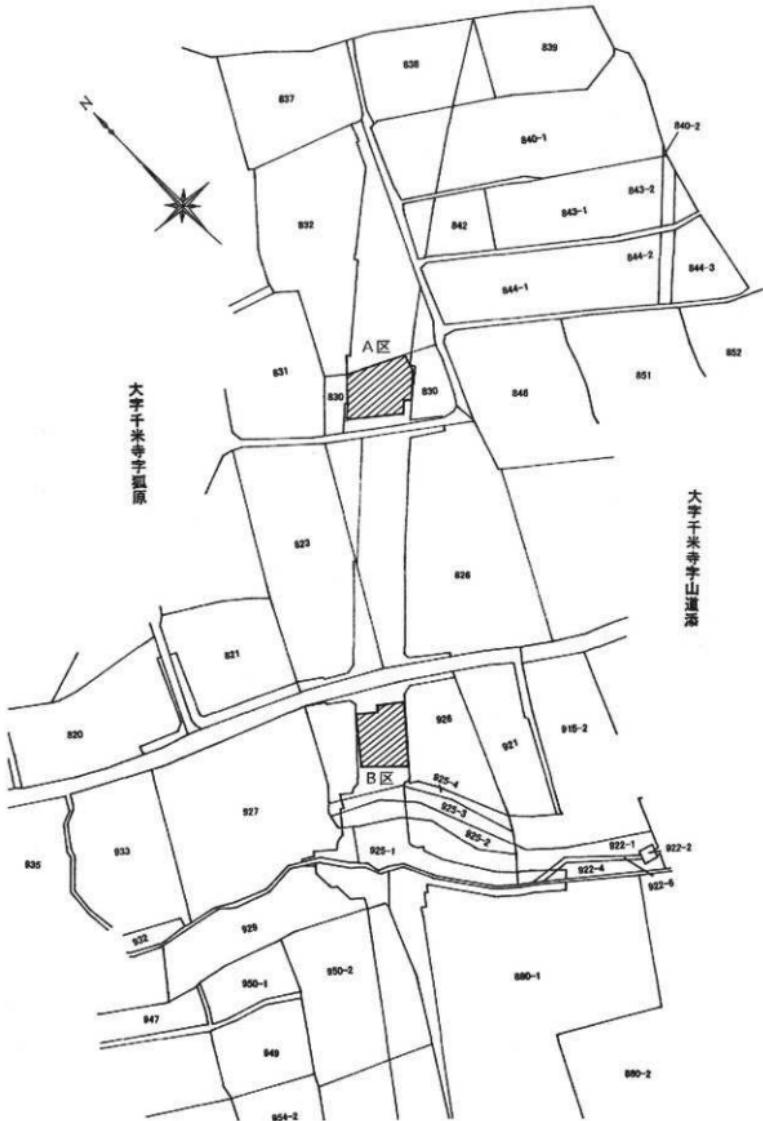


第2図 周辺遺跡分布図 (S=1:10,000)

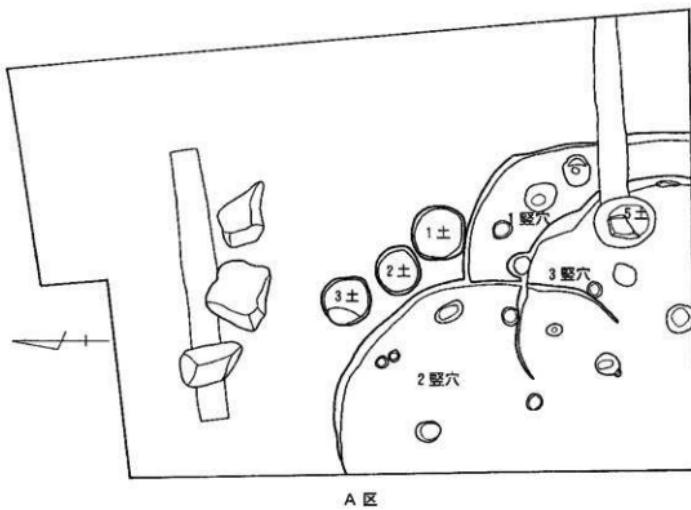
- | | | | | | | | | |
|--------|---------|--------|-------------|----------|-----------|----------|---------|---------|
| 1. 物見塚 | ひつじんぐでん | 2. 未新田 | さんこうじんじんぐいら | 3. 三口神平 | 4. 塚越 | 5. 鎧塚B | 6. 鎧塚A | やまとみやぞく |
| 8. 日向林 | ひなたや | 9. 蜂城跡 | はちじょうせき | 10. 桧山田 | 11. 若宮 | 12. 南屋敷 | 13. 釘迎堂 | 7. 山道添 |
| 15. 無込 | むのり | 16. 宮田 | みやた | 17. 大塚古墳 | 18. 物見塚古墳 | 19. 鎧塚古墳 | 14. 地蔵塚 | |

大字千代寺字物見塚

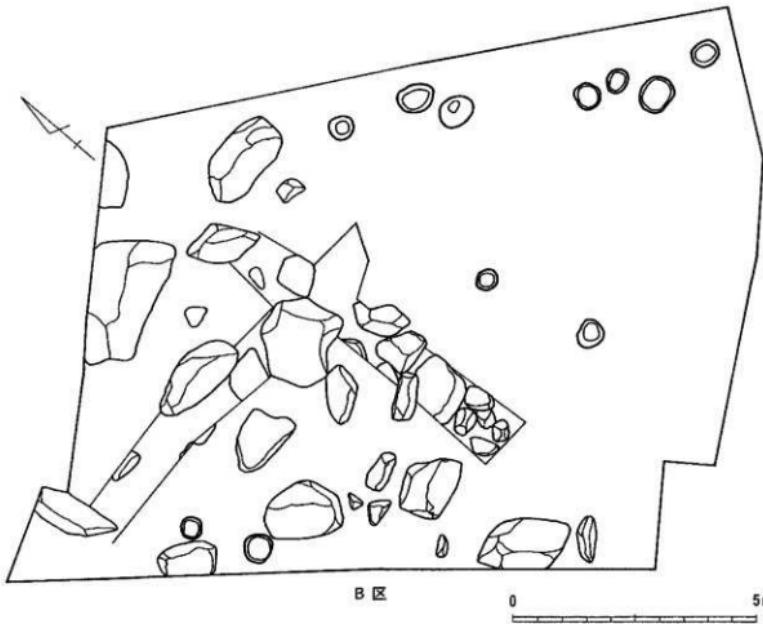
大字千代寺字山道瀬



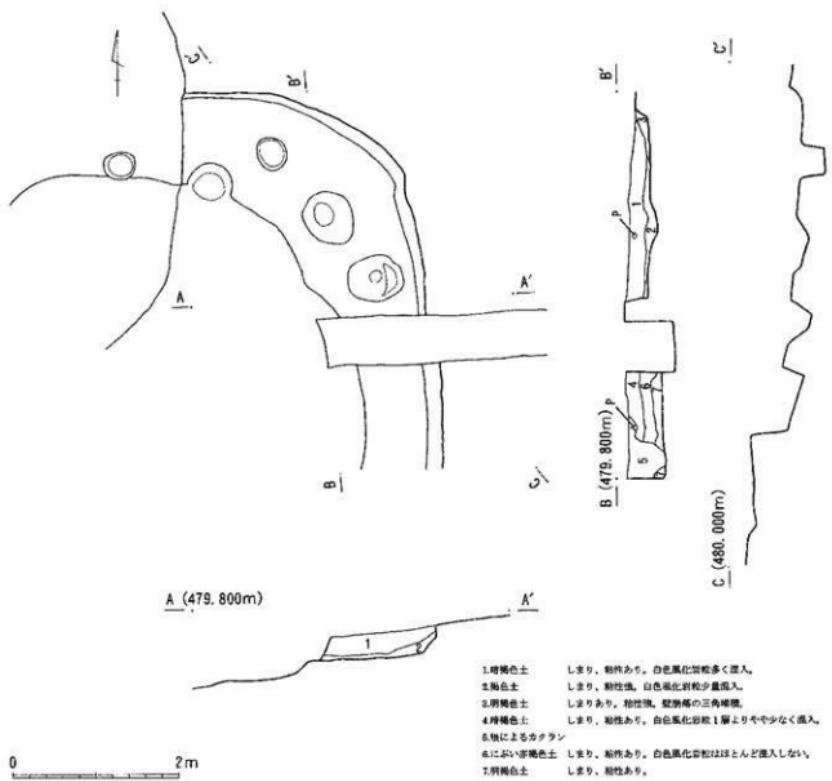
第3図 調査区位置図 (S=1:500)



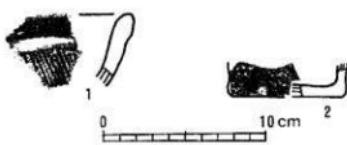
A 区



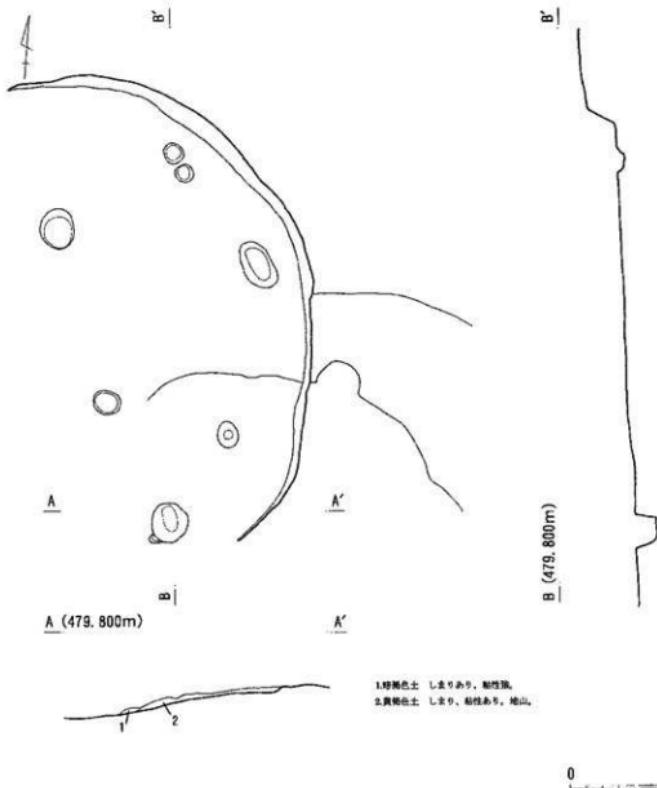
第4図 遺構配置図



第5図 1号竪穴遺構



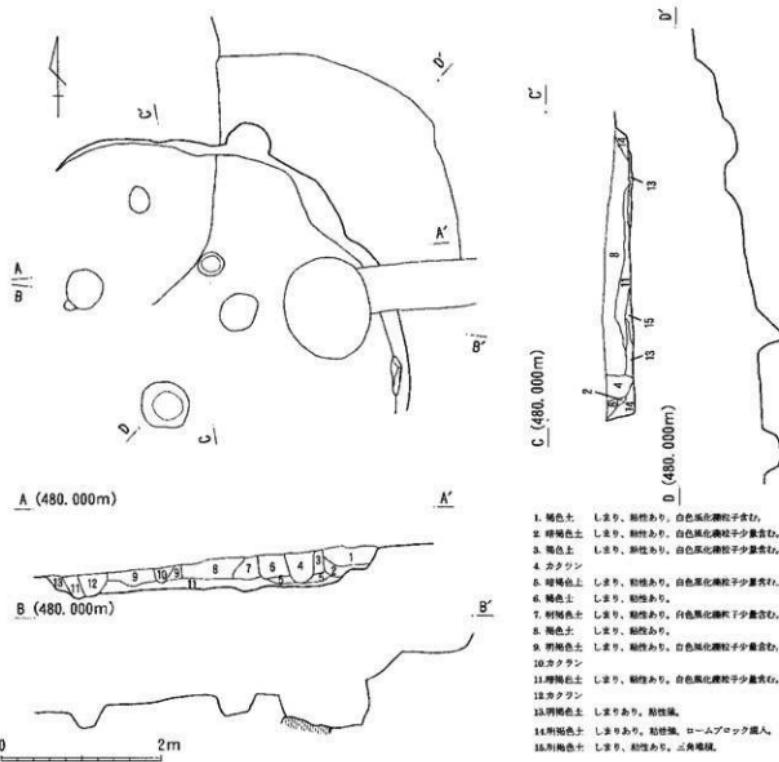
第6図 1号竪穴遺構出土土器



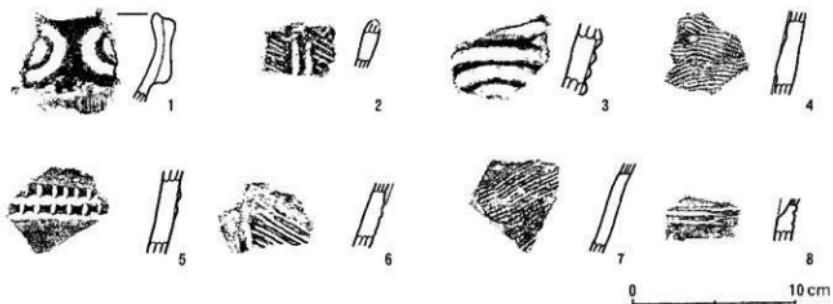
第7図 2号竖穴造構



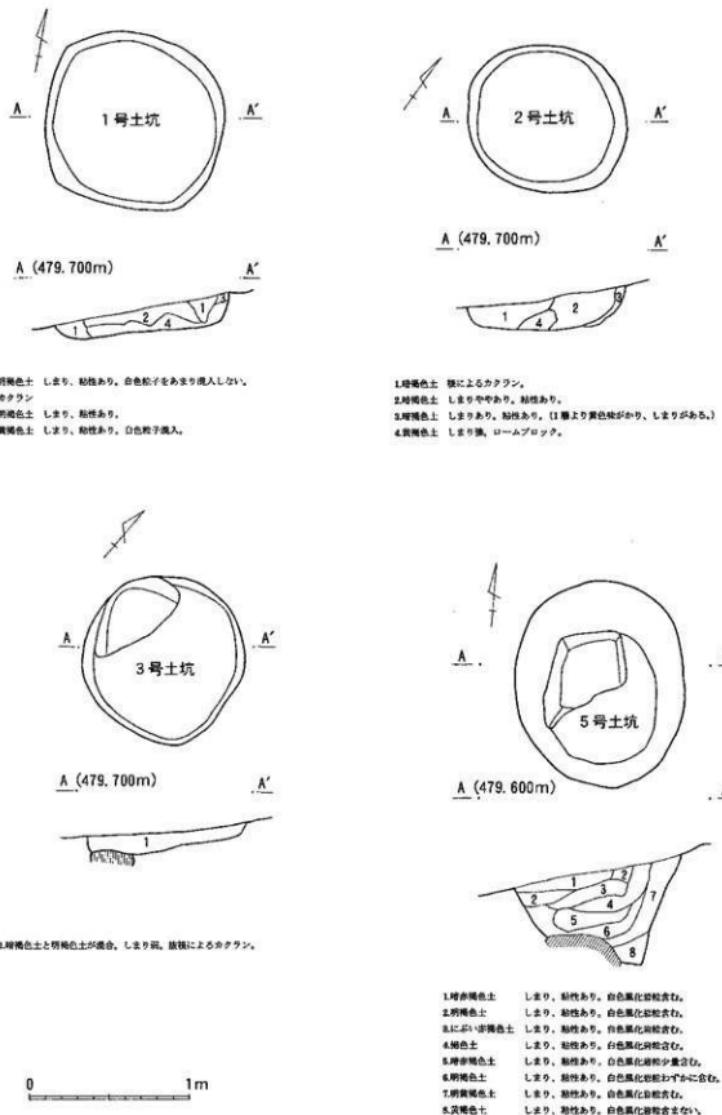
第8図 2号竖穴造構出土土器



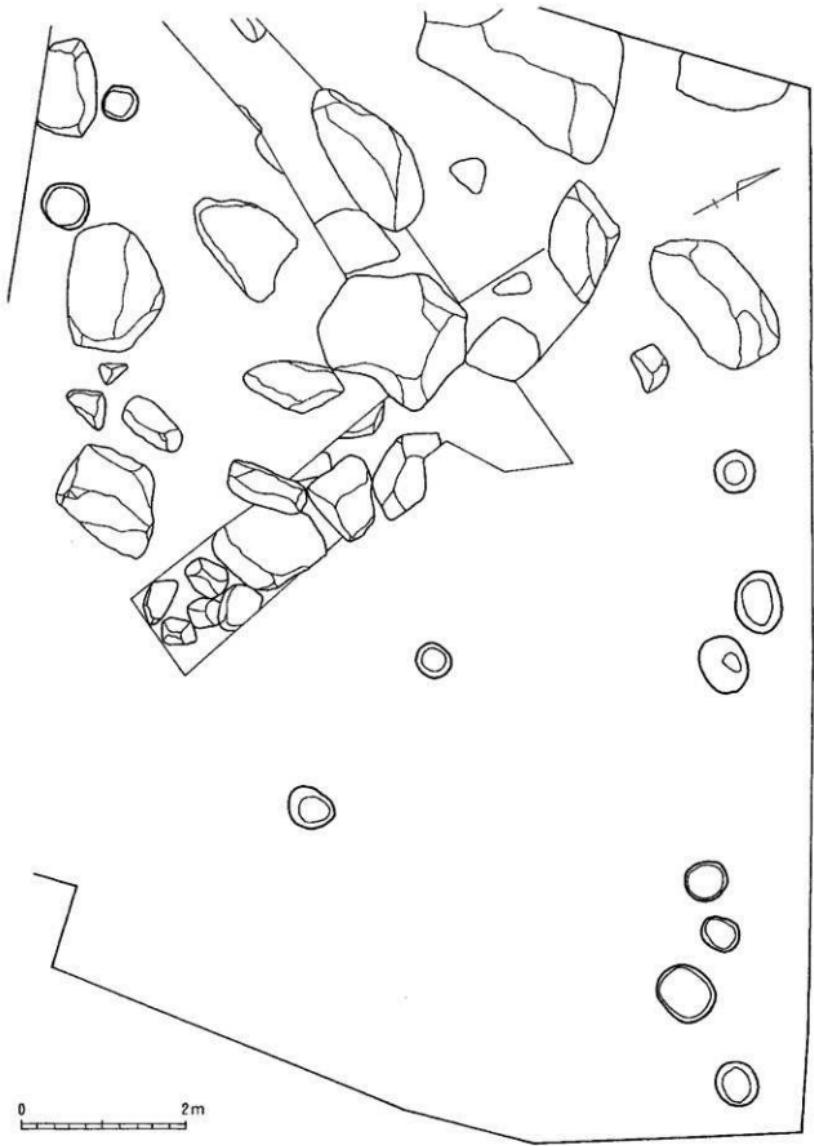
第9図 3号竖穴遺構



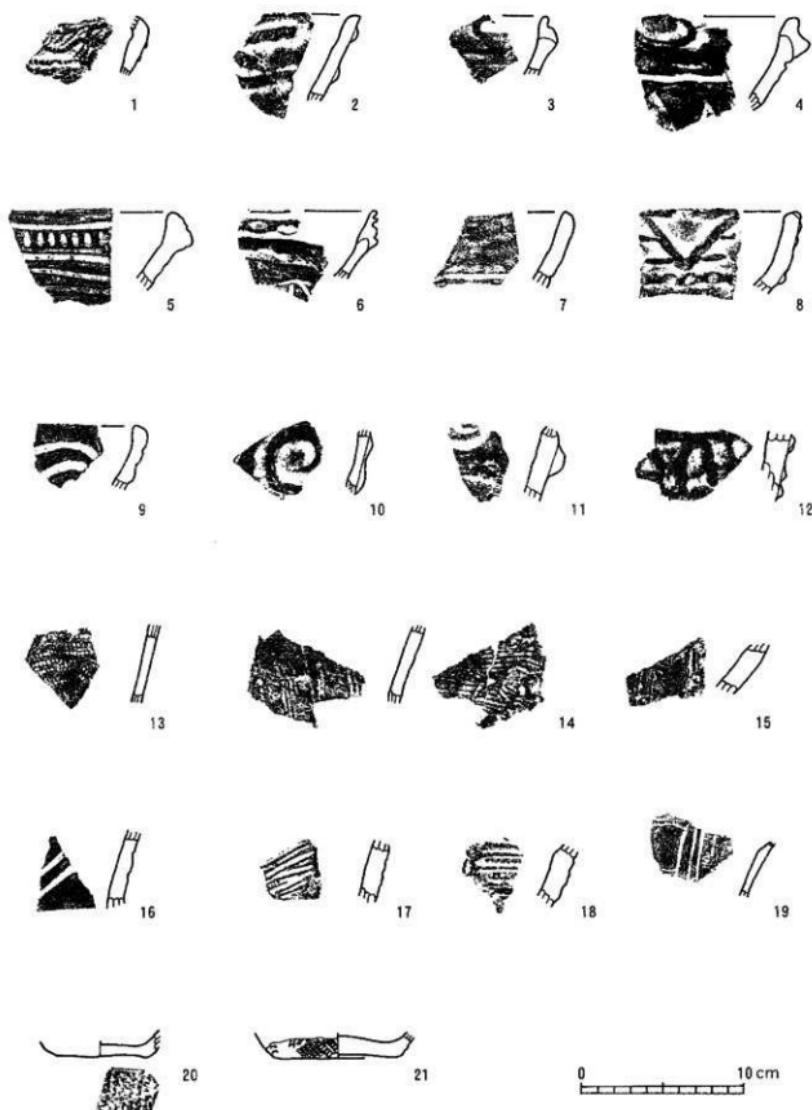
第10図 3号竖穴遺構出土土器



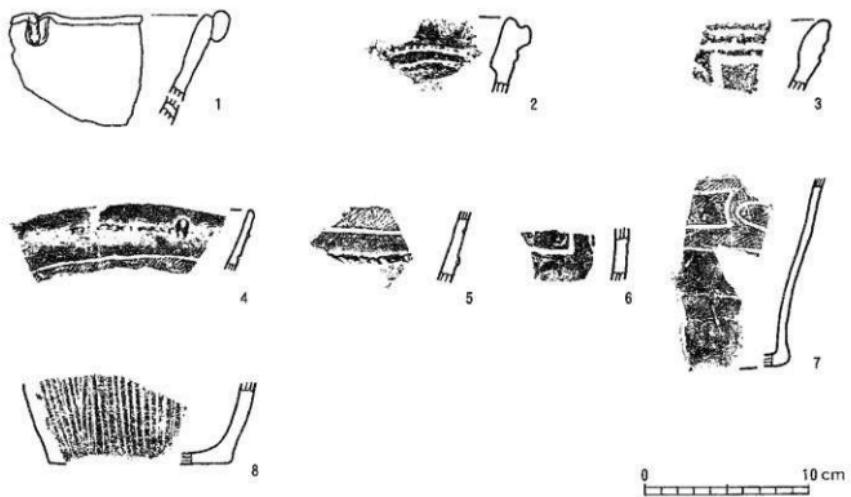
第11図 土坑



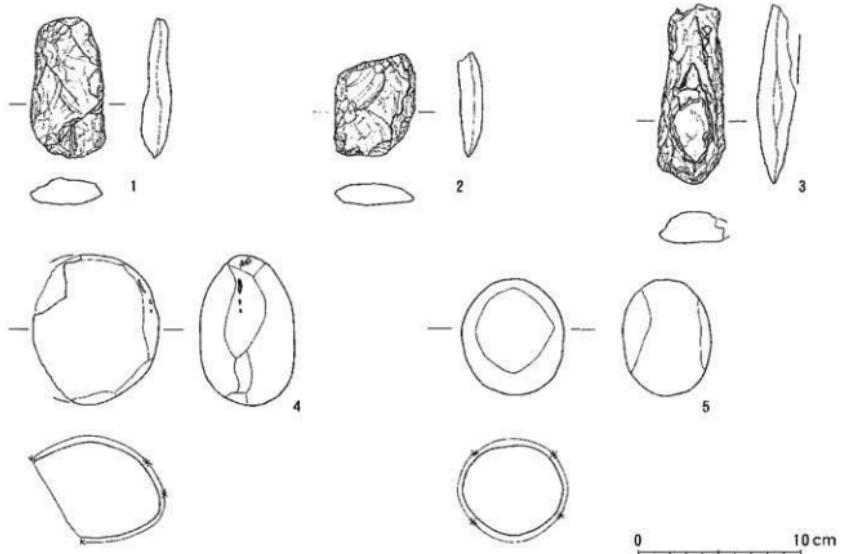
第12図 ピット群



第13図 A区遺構外出土土器



第14図 B区遺構外出出土土器



第15図 石器

第1表 物見塗遺跡遺物観察表(1)

測量番号	番号	遺物名	時期	断面	文様・マーク	備考内容
第6回	1	縄文時代中期	口縫	芯打頭内張り焼成		口縫縁。次後に、より複雑な芯打頭内張り焼成が施されている。縄文は長い印斜目。縄文時代中期後半、骨利び式縁。
第6回	2	縄文時代後期	口縫	芯打頭内張り焼成	縄文	口縫縁。芯打頭内張り焼成が施されているが、縄文時代中期後半で施されることがない。芯打頭は芯打頭ではない。色調がやや暗い点が特徴的である。
第8回	1	縄文時代中期	口縫	口縫無地、以下縄竹笠合文化		内縫する口縫から手縫竹笠合文化が施される。縄文時代中期後半、五輪矢式縁。
第8回	2	縄文時代中期	口縫	浅縫	浅縫	内縫する口縫から手縫竹笠合文化が施される。内縫に「私」字平行文を施す。縄文時代中期後半、五輪矢式縁。
第10回	1	縄文時代中期	口縫	口縫無地	浜毛文	内縫から手縫竹笠合文化が施される。内縫に「私」字平行文を施す。また、内縫に「私」字平行文を施す。縄文時代中期後半、五輪矢式縁。
第10回	2	縄文時代中期	縫縫	縫縫		内縫する各縫に区隔された手縫竹笠合文化が施される。縫縫方式縁。
第10回	3	縄文時代中期	口縫	浜毛文	浜毛文	内縫に「私」字平行文を施す。縄文時代中期後半、骨利び式縁。
第10回	4	縄文時代中期	縫縫	縫縫	縫縫	内縫に「私」字平行文を施す。内縫が施されている。
第10回	5	縄文時代中期	縫縫	縫縫		平行する縫縫2本の縫縫に縫縫が施されている。骨利び式縁。
第10回	6	縄文時代中期	縫縫	縫縫	縫縫	平行する縫縫2本の縫縫に縫縫が施されている。骨利び式縁。
第10回	7	縄文時代	縫縫	縫縫	縫縫	縫縫に縫縫2本の縫縫に縫縫が施されている。骨利び式縁。
第10回	8	縄文時代前期末	縫縫	縫縫	縫縫	縫縫に縫縫2本の縫縫に縫縫が施されている。骨利び式縁。
第13回	1	縄文時代後期	口縫	縫縫地に横に斜め印斜目	縄文	縫縫地に横に斜め印斜目が施される。十三重筒式縁。
第13回	2	縄文時代	口縫	口縫無地土師絞繩縫二段式		口縫縫に2本の芯打頭土師絞繩縫が施される。芯打頭二段式を施す。
第13回	3	縄文時代	口縫	口縫無地		口縫縫に「引」字モチーフした焼帯が施す。
第13回	4	縄文時代後期	口縫	縫縫地と縫縫地		口縫縫地と縫縫地。
第13回	5	縄文時代後期	口縫	縫縫地、別外縫		口縫縫一筋の外縫。
第13回	6	A.K.	縄文時代後期	口縫	口縫無地直縫	口縫縫に横に横幅狭い直縫。
第13回	7	縄文時代	口縫	口縫下縫は縫縫		口縫縫地と縫縫地。
第13回	8	縄文時代中期	口縫	芯打頭土師絞繩縫		口縫縫に芯打頭土師絞繩縫が施される。芯打頭二段式。
第13回	9	縄文時代中期	口縫	口縫無地毛文		口縫縫に「引」字モチーフした焼帯で縫縫で施す。縄文時代中期後半、骨利び式縁。
第13回	10	縄文時代中期	縫縫	縫縫	縫縫	浜毛文、縄文時代中期後半、骨利び式縁。
第13回	11	縄文時代中期	縫縫	縫縫		大いに縫縫で芯打頭。

第13回	12	魔文時代中間	解説	紹土紹引付け	解説に點(付け)三番目シングル(紹土)で既に、
第13回	13	魔文時代	解説	美文	解説に場所を施される。主張するか、原さばは最初の解り、魔文時代解説に、北区がレコード。
第13回	14	魔文時代	解説	美文	解説に場所を施される。全26章含む。
魔文時代	15	魔文時代	解説	解説	解説に場所を施される。
魔文時代中間	16	魔文時代	解説	解説	解説に場所を施す。
魔文時代中間	17	魔文時代	解説	解説	解説を含むする次に施された場所状況解。魔文時代中間解と、解説合文。
魔文時代中間	18	魔文時代中間	解説	解説	解説を含むする次に施された場所状況解。
魔文時代後編	19	魔文時代後編	解説	解説	解説に点(付)する次に施された場所状況解。銀之助合文解。
魔文時代	20	魔文時代	解説	解説	解説に解り解説がある。主張はは解り解く。ヨリ解り度である。解まれている場所の解りヨリ解り度である。
魔文時代前編	21	魔文時代前編	解説	解説	解説未施用認められない。解説、解説未(付)解文未(付)解文が施される。解説未(付)解説、十三番目式解。
魔文時代前編	1	魔文時代前編	口説	無款	口説に(付)付けるよる完結を有する。解説未(付)解説未(付)は定められよが。
魔文時代中間	2	魔文時代中間	口説	口説	口説下に(付)次回による前回文解を置いてある。解説未(付)中解解下、解説未(付)。
魔文時代中間	3	魔文時代中間	口説	解説	解説に解説を施す。解説未(付)解説解。
魔文時代後編	4	魔文時代後編	口説	解説	口説下に(付)解説を施す。口説未(付)解説又は(付)未(付)。解之助合文解と、解説合文。
魔文時代後編	5	魔文時代後編	解説	解説	解説上に解説と、その下に(付)解説を施す。解説未(付)解説又は(付)未(付)。
魔文時代後編	6	魔文時代後編	解説	解説	解説未(付)解説。
魔文時代後編	7	魔文時代後編	解説	解説	解説未(付)解説。
魔文時代中間	8	魔文時代中間	解説	解説	解説未(付)解説未(付)。
魔文時代中間	9	魔文時代中間	解説	解説	解説未(付)解説未(付)。

第2表 石器觀察表

標本番号	番号	通称名	層位	器形	大きさ	重量
15回	1	A区	獨立時代	打制石斧	8.8cm	4.8kg
15回	2	1号竪穴遺構	獨立時代	打制石斧	6.2cm	6.2kg
15回	3	B区	獨立時代	打制石斧	11.4cm	4.2kg
15回	4	2号竪穴遺構	獨立時代	磨石	9.6cm	7.6kg
15回	5	1号竪穴遺構	獨立時代	磨石	7.4cm	6.2kg

図版 1



1. 物見塚遺跡から甲府盆地を望む



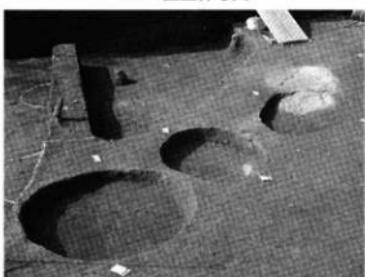
2. 調査風景



3. A区全体写真



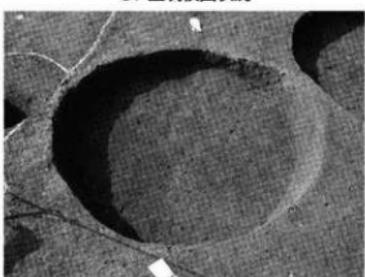
4. B区全体写真



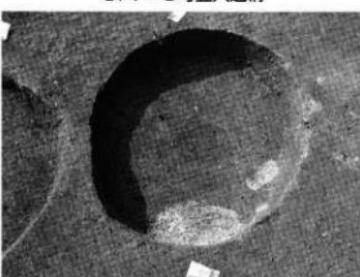
5. 土坑検出状況



6. 1~3号竖穴遺構

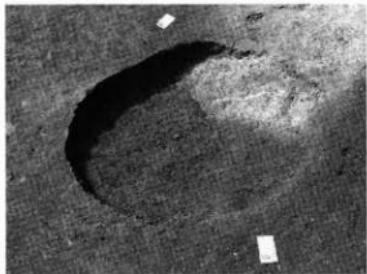


7. 1号土坑検出状況



8. 2号土坑検出状況

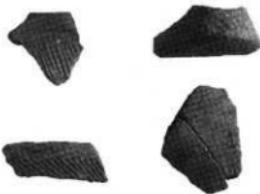
圖版 2



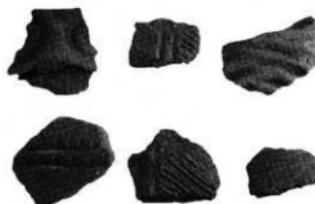
9. 3号土坑檢出狀況



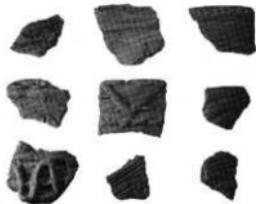
10. 5号土坑檢出狀況



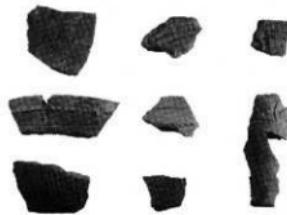
11. 1号·2号豎穴遺構出土土器



12. 3号豎穴遺構出土土器



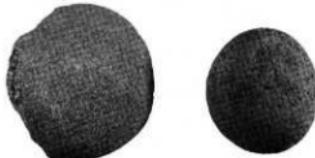
13. A区遺構外出土土器



14. B区遺構外出土土器



15. 打製石斧



16. 磨石

報告書抄録

ふりがな	ものみづかいせき							
書名	物見塚遺跡							
調書名	農林漁業用探査用税財源身替農道整備事業実施地区施工建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	笛吹市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第12集							
著者名	望月和幸、大木丈夫							
編集機関	笛吹市教育委員会							
所在地	〒406-0031 山梨県笛吹市石和町市部809-1 Tel. 055-(261)-3342							
発行年月日	2010年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	測地系 道路番号	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
ものみづかいいせき 物見塚遺跡	やまとしきんふくいせき 山梨県笛吹市 いのちのみやちようせんねいじ 一宮町千木寺 あさやまみちやせんねいじ 宇山遺跡926他	19201	87	35° 38' 33"	138° 42' 59"	20080924～ 20081020	約400m ²	農道建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
物見塚遺跡	集落跡	縄文時代	堅穴遺構 3軒 土坑 4基 ピット	縄文土器				

笛吹市文化財調査報告書 第12集

物見塚遺跡

発行日 平成22年3月30日
発行 笛吹市教育委員会
印刷 濑田印刷社
山梨県笛吹市御坂町養友塚489

The Report of
Archaeological Research of MONOMIZUKA Site

Archaeological Rescue Survey prior to
the Farm Rode Construction by the Bankroll of
Gasoline Excise in the East Ichinomiya Area.

March, 2010

Agricultural Department, Yamanashi Prefectural

Development Office of Kyoto Area

Fuefuki City Board of Education